

近畿大学建築学部 ・ 賛八会 共催
第11回 建築学部設計コンペティション
協力： 大和板紙 ・ 株式会社コアパック ・ N.D.C 株式会社

「ペーパーハニカムボードの茶室」

課題

このコンペティションは、毎年、われわれにとって身近なサスティナビリティ素材の可能性を、素材の特性を生かして小空間をつくることを通して学ぶことを目的とし、コロナウイルスのパンデミックによる、2020年の中止を挟んで、既に「間伐材」、「再生段ボール」、「竹」、「紙管」、「葡萄蔓」、「ペットボトル」、「竹藁(たけぼうし)」、「再生紙ブランター」、「稲藁」の9つの素材で9年間にわたって開催し、空間のセルフビルドを実践してきた。

ハニカム構造は、1940年代に航空機の軽量化を目的に開発された比較的新しい技術である。建築分野では、アルミハニカムパネルが、強い面剛性を発揮する特性を生かし、最小限の支持材と共に庇などに用いられている。また、ペーパーハニカムボードは軽くて、反らず、強度を持つことから建具の芯材として用いられている。この素材は、原材料が段ボールと共通であるため、再生可能でサスティナブルな素材である。それと同時に、その薄さに反して非常に強い面剛性を持つハイテックな素材であるといえる。

今年のコンペティションでは、過去の茶室コンペティションで扱ってきた中で最も大きな面で使用でき、高い面剛性を持つこの素材の特性を、どう生かすかが求められる。構造的なアイデアも必要であり、部材どうしの接合のディテールのアイデアと全体の構想を行きつ戻りつして考える必要もあって、挑戦的な課題である。また、固定する針金や紐など補助的な部材を合わせて使用しても良い。また、ここでは、茶室を、実際にお茶を点てる場ではなく、対話のための最小限空間と考え、千利休のような自由な発想で設計してほしい。

1等案は、実際に1階ギャラリーに建築する。サスティナビリティに貢献する、人と人、人と環境の対話の空間の、新しい可能性が提示されることを期待している。空間体験の豊かさだけでなく、実際に製作し、一定期間設置することを前提とした、製作可能性や、設置時の安全性も考慮した設計が望まれる。解体後の大和板紙による回収、再生(いったん溶かして再生する)に対する配慮もすべきである。

計画条件

建築学部1階ギャラリーの右図のエリアに計画する。

素材：ペーパーハニカムボード。(主材料。事務部にサンプルを見られるよう設置)
固定等に他の副次的な材料を補助的に用いても良い。

提出物

<A1縦使い1枚・PDF Google Classroomにデータ提出(100MB以下)>
提案コンセプト、設計趣旨、平面図・断面図(縮尺は自由)。その他パースやドローイング、模型写真等で設計内容をグラフィカルに表現すること。名前、学籍番号等、応募者を特定できる内容を図面表に記入しないこと。(模型の提出は不要・A1シートは横使いではなく、縦使いとすること)

各賞 (賞金総額図書券10万円、賞金額は入賞者数等により調整する。佳作は賞状のみ。)

最優秀賞 : 1作品
優秀賞 : 3~5作品
特別賞(賛八会賞): 1~2作品
佳作 : 数点
(入賞者は来年の賛八会秋の集いに招待される)

応募資格

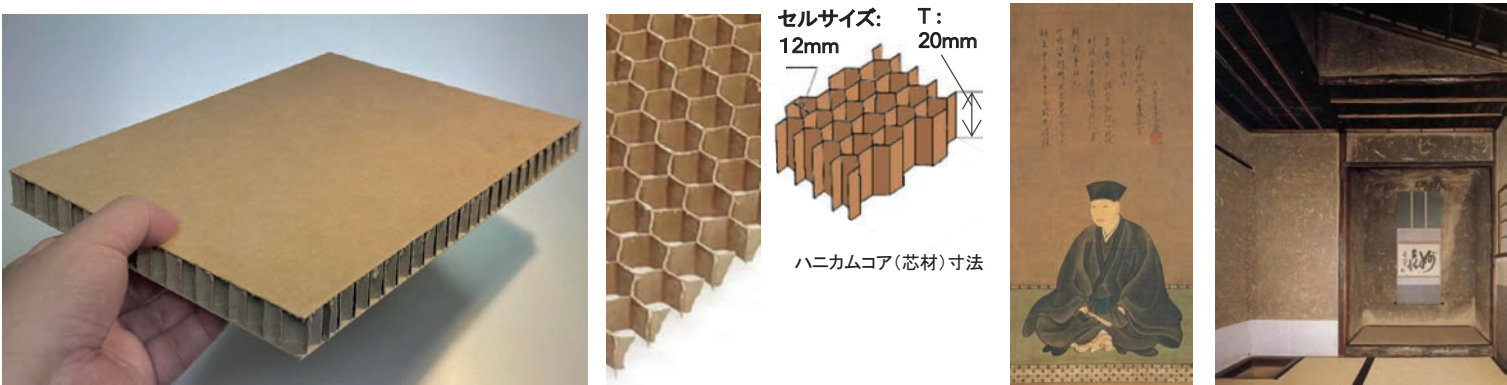
提出時に近畿大学建築学部または、大学院総合理工学研究科に在籍していること
(複数人で応募する場合も全員が有資格者であること)

製作

最優秀案は、2月後半~3月に、建築学部1階ギャラリーで実際に製作する。



応募者には、もれなく、セルフビルドの茶室 過去6プロジェクトをまとめた、「素材との対話」(建築資料出版社 160ページ 1980円)を進呈します。



ペーパーハニカムボード L:1,800mm X W: 1,150mm X T: 20mm

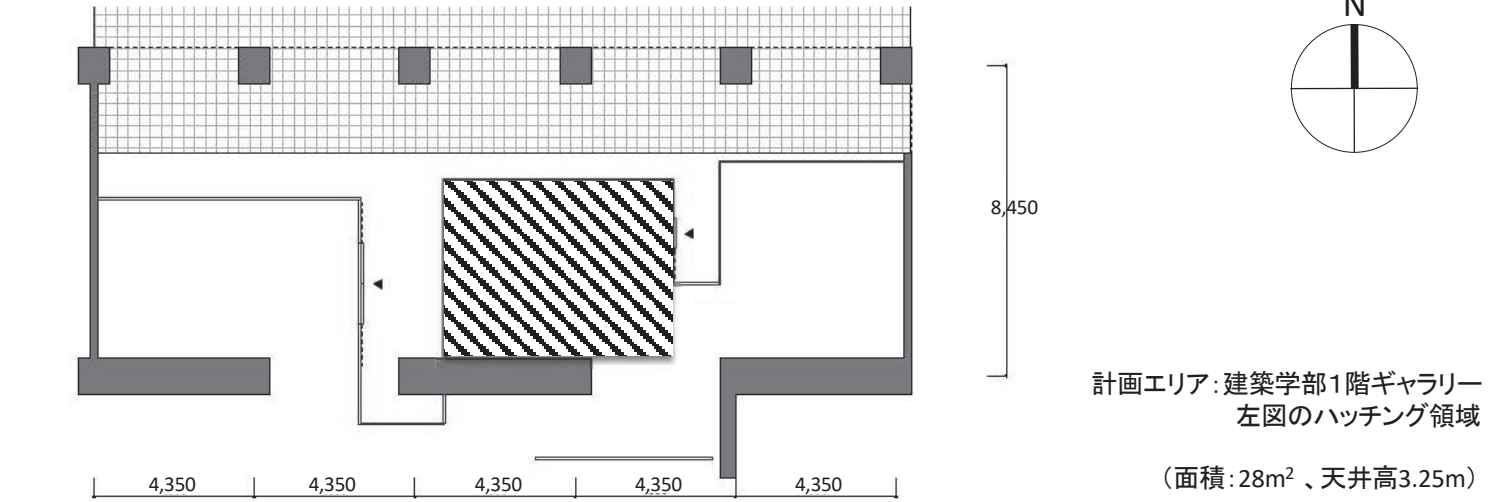
ハニカムコア(芯材)

千利休(1522-1591)

待庵(1582 設計:千利休)

<写真とは異なり、実際の素材は 1.8m X 1.15mの大判になります>

<カッターでのカットが可能です、工場で一定の大きさにマシンカットしてもらうことも可能です>



結果発表・表彰式・展覧会

審査結果は受賞者に通知するとともに、建築学部掲示板、建築学部HPおよび、賛八会HPにて発表する。
表彰式、展覧会1月下旬開催予定。



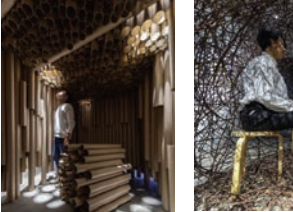
2015年「間伐材の茶室」最優秀案:
「間伐材の秘密基地」



2016年「再生段ボールの茶室」最優秀案:
「心を解く」



2017年「竹の茶室」最優秀案:
「相関の輪」



2018年「紙管の茶室」最優秀案:
「紙管空間—『違和感』と『非日常の光』の認識—」



2019年「葡萄蔓の茶室」最優秀案:
「乱れ編み〜対話のための極限空間〜」

提出先: Google Classroom クラスコード: ukc3rbap

締切: 2025年12月26日(金) 17:00

審査委員

審査委員長 野田 博 (近畿大学建築学部学部長)

審査委員 福本 晃治、寺川 政司、松岡 聡、竹口 健太郎、堀口 徹、高岡 伸一、山隈 直人、駒田 由香、宮原 克昇、今村 水紀、魚谷 剛紀、菅原 彬子、垣田 博之(近畿大学建築学部)
賛八会 役員の方々(4名予定)

事務局 垣田 博之 (近畿大学建築学部)



2021年「ペットボトルの茶室」最優秀案:「YURAGI」



2022年「竹藁の茶室」最優秀案:「竹藁の茶室—アジサイ」



2023年「再生紙ブランターの茶室」最優秀案:「HOLLOW」



2024年「稲藁の茶室」最優秀案:「対話のつぐら」

賛八会(さんばち会)

建築学科が設立された第1期生からなる同窓会で現在の建築学部同窓会卒業生部会の通称。
<http://sanhachikai.com>

協力

大和板紙 近畿大学の古紙を一括して再生している柏原市の企業
株式会社コアパック 愛知県春日井市の段ボール・ハニカム製品製造企業
N.D.C 株式会社 愛知県春日井市のハニカムボード製造企業